

日本キリスト教会大阪北教会  
2016年9月11日 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男  
高齢会員を覚える合同礼拝

**詩編 第23篇**

- 23:01 主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。  
23:02 主はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い  
23:03 魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく、  
わたしを正しい道に導かれる。  
23:04 死の陰の谷を行くときも、わたしは災いを恐れない。  
あなたがわたしと共にいてくださる。  
あなたの鞭、あなたの杖、それがわたしを力づける。  
23:05 わたしを苦しめる者を前にしても、  
あなたはわたしに食卓を整えてくださる。  
わたしの頭に香油を注ぎ、わたしの杯を溢れさせてくださる。  
23:06 命のある限り、恵みと慈しみはいつもわたしを追う。  
主の家にわたしは帰り、生涯、そこにとどまるであろう。

**ヨハネによる福音書16章33節**

これらの事を話したのは、あなたがたが、  
私によって平和を得るためである。あなたがたには世では苦難がある。  
しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。

説教『わが心安し、神によりて安し』

◆今朝私たちは、私たちの愛唱する詩編23篇とヨハネによる福音書にある主イエスの御言葉を聞こうとしております。私たちは2014年8月3日からヨハネによる福音書の講解説教を始めました。それから2年強経っているわけですが、これ迄に読んだところはヨハネによる福音書全体21章の内12章までです。2年以上かかって半分読んだこととなります。ですから終わりまで読むのにもあと2年はかかります。しかし私たちがこのヨハネによる福音書を通して示された事は、イエス・キリストと父とが一つであられるということであり、従って主イエス・キリストの御言葉は神様の御言葉であり、そしてそれらはすべて真実であるということでもあります。旧約聖書のことを英語で「オールドテストメント」と言い、新約聖書を「ニューテストメント」と言います。「テストメント」という言葉はラテン語からきていますが、その意味は「証言・証し」であります。そしてこの言葉は究極的な意味を持つということで、「遺言」とも訳されます。正に聖書という書物は神様御自身の自己証言の言葉であり、そして御言葉を通して恵みに触れた者、人間の証しの言葉でもあります。今日の詩編23篇は、正にイスラエルの神信仰、私たちの信仰の先達の、心からの神信仰を表しております。今一緒に歌った讚美歌120番の歌詞は、この

23 篇からとられていることは何度も申し上げました。そして、この 23 篇が万人に愛唱される訳が段々とよく分かるようになってきたと思います。また私たち自身の愛唱の賛美歌でもあり、そのことを強く覚えるのであります。

◆またヨハネによる福音書の講解説教は 2 年前に始めたと申しましたが、その前は週報によって振り返ってみますと、いわゆる『バルメン宣言』の講解説教を 10 回行っております。『バルメン宣言』は、ドイツの教会が結集して独裁者ヒトラーと戦うために、告白したものであります。1934 年 5 月のことであります。これは 6 つのテーゼ・条文からなっています。その第一テーゼは週報の牧師の落穂拾いにも載せたことがあります。こうであります。「聖書においてわれわれに証しされているイエス・キリストは、我々が聞くべき、また我々が生と死において信頼し、服従すべき神の唯一の御言葉である」。これがバルメン宣言の第 1 テーゼと言われるものです。イエス・キリストがどういう御方であり、聖書がどういうものであるかということ短い言葉で見事に言い表しています。我々はイエス・キリスト以外のものには従わない。という否定の文章がこれに続くのですが、この宣言の案を準備したのがカール・バルトなのです。もう一度私たちはこれを噛みしめて、自らの心からの告白としていきたいと思ひます。

◆このように聖書において証しされている唯一の神の御言葉であるイエス様が、今日のヨハネ福音書 16 章 33 節でこう言われるわけであります。「これらのことを話したのはあなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世では苦難がある。しかし勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。この「苦難」と言う言葉は、英語では Tribulation で、「艱難」という漢字を当てるのがよいと思ひます。私たちが人生途上で遭遇する苦難に苦悩することです。これが今読んだ詩編でもそうであります。「死の陰の谷を行く」とありました。わたしたちの人生の歩みは羊飼いに導かれて青草の原に休み、また憩いの水のほとりに行く、そのような穏やかな時もあります、けれども、「死の陰の谷を行く時」もあるので。一歩間違えば、死の谷底に落ちるのです。

◆しかしわたしたちがどのような時、所を過ごそうとも、私たちの牧者である神は私たちと共にいて下さる。これが神の民・イスラエルの経験したところあります。そしてここに集められているわたしたちも、それぞれの人生において本当に艱難、苦悩の間に突然突き落とされる経験をします。しかしあとになって分かることは、そのようにどこにも光がなく、助けがないと思える時にも、後で気がつく事ですが、神様は、そのような時にもこの私と共に居てくださる御方なのです。そういう経験を積み重ねて、私たちの神様への信頼は強められてゆきます。

◆ヨハネによる福音書の中にはヨハネ福音書にしかないイエス様の御言葉があります。それは 10 章 11 節以下に繰り返し出てくるのですが、イエス様は「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」と、繰り返しおっしゃっています。牧畜民であったイスラエルの民は、羊飼いが羊を助けるために命を落とすということは架空のことではなくて、正に実体験なのです。羊飼いは羊を養い、育て、助けるために命をかけるのです。そのようにして羊を守る。そのようなイスラエルの経験にふまえて、イエス様はおっしゃいます。「わたしは良い羊飼いであ

る。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」と。これが、私たちが信じているイエス様であります。そして、このようにおっしゃるイエス様が、天地万物の造り主であり、歴史の支配者であり、導き手であられる、神様と一体の御方であられるというのが、ヨハネ福音書のテストメント・証言であります。ですから、私たちが人生の途上で経験しますすべての艱難、苦難をも、主イエス・キリストは、善に、益に、平和に、喜びに変えてくださるのです。今日のヨハネによる福音書 16 章 33 節の「これらの事を話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである」とは、この事を指しております。

◆わたしたちの主イエス・キリストは「平和の君」であります。今日の高齢会員を覚える礼拝とお祝いの会の後、ジョアンナさんの歓迎会を行い、スピーチをお聞きます。その歓迎会の最初と最後に、アレキサンダー宣教師ご家族の愛唱賛美歌であった、あの“King of kings, and Lord of lords.” を歌うことにしています。その 2 段目に” Jesus, Prince of peace.” とあります。主イエス様は、本当に慰めなき所に追いやられた者に、平和と慰めと安らぎと喜びを、必ずもたらして下さる良い羊飼いであられるのです。この歌がアレキサンダー宣教師ご家族の愛唱賛美歌であることを、ジョアンナ姉に教えてもらって、それから私たちも折ある毎に歌ってきました。正にイエス・キリストがわたしたちに平和を、安らぎを、慰めを、必ずもたらしてくださる御方であり、万事を益に変えてくださる御方であることを信じて、アレキサンダー宣教師が伝道に励まれたことがしのばれます。

◆それをわたしたちもこれまでの歩みにおいて経験してまいりました。わたしたちは昨年から今年にかけて、愛する兄弟・姉妹たちを主の御側近くに送りました。そしてわたしたちは、その度毎に、主イエス・キリストと一体であられる神様の顧み方が、本当に一人、一人の上に絶えずあったのだということを、兄弟姉妹たちを送る度ごとに思い知らされてきました。今日の説教の前と後に歌う讃美歌は 8 月 21 日に召された、丹後のぶ子姉の愛唱讃美歌です。8 月 24 日の葬儀の時も歌いました。丹後姉の信仰がしのばれて、本当に嬉しいですね。今日の説教題「わがこころ安し、神によりて安し」は 520 番のリフレインの言葉、「こころ安し、神によりて安し」から取りました。私たちが公的に聞いた丹後姉の言葉は、7 月 24 日の教会全体協議会の折のもので、教会全体協議会の記録は皆さんに回覧してもらうために 2 部作って回覧していただいておりますが、その中に丹後さんの発言が記録に残っています。それはこういう言葉でした。「わたしがこの道を選び、北教会を選び、今まで歩んできたことは間違いではありませんでした」とおっしゃっています。これは正に丹後さんの証言ですね。我々みんな丹後のぶ子姉の言葉を聞きました。これが最後の言葉です。遺言・証言・テストメントですね。

◆今日は幸いにも、アレキサンダー宣教師の曾孫に当たられるジョアンナ姉が来日され、共に礼拝を守っておられますが、今日初めてジョアンナさんにお会いになる方も多いと思います。この大阪北教会を起こされたアレキサンダー宣教師の曾孫さんですけれども、今日のお祝いの会の後にスピーチをしていただきます。このたび、「アレキサンダー宣教師伝」を 10 年がかりで書き上げられ、アメリカで今年のはじめ出版されたのです。その日本語版を出すための準備を兼ねて、このたび日本に来られました。そのアレキサンダー宣教師はこういうふうに言っておられます。「大

阪は天国に次いですばらしい所です」と。アレキサンダー宣教師は今から百年以上前の大阪に伝道に来られて、「大阪は天国に次いですばらしい所です」との印象を持たれたのです。今もそうであってほしいと思いますけれども。また、休暇でアメリカに一時帰国された時、友人仲間から、「君は日本に行って、後悔していないか」と質問されたのに対し、「わたしは、わたしの人生を何度でも日本にささげたいほどです」と答えられたそうです。

◆わたしたちはこのような本当に素晴らしい信仰の遺産を引き継いでいるのです。わたしたちは、主イエス・キリストに結ばれて、主に伴われて、私たちもまた、十字架、復活、昇天の道の途上にあります。そしてこの途上においては言い尽くし難い艱難、試練があります。今日の詩編は第23篇ですけれども、その前の詩編第22編も皆さんもよく知っておられるはず。なぜなら、イエス様は十字架上でこの22編を叫ばれたのです。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と。ですから、「良い羊飼いは羊のために命を捨てる」ということは、神に捨てられるべき者に代わってその一切の負い目をわが身に負われるということを含んでいるということなのです。しかしこの詩編22篇は、この叫びに続いて、こう言っているのです。「22:04 だがあなたは、聖所にいまし、イスラエルの賛美を受ける方。22:05 わたしたちの先祖はあなたに依り頼み、依り頼んで、救われて来た。22:06 助けを求めてあなたに叫び、救い出され、あなたに依り頼んで、裏切られたことはない」と。私たちの信じる神様は真実です。主イエス・キリストはどこまでも真実であります。「イエス・キリストは、我々が聞くべき、また我々が生と死において信頼し、服従すべき神の唯一の御言葉であります」。

◆そのようなことでありまして、本当に神様は善なる方、イエス様は善なるお方で万事を善に変えてくださいます。「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」。こう言われる御方が常にわたしたちに伴ってくださるのです。私たちの過去も未来も現在も、主イエス・キリストに結ばれ、伴われ、守られているこの上なく幸いな人生であります。私たちは思いを新たに信仰の原点に立ち返り、アレキサンダー宣教師の志、遺産を継いで、わたしたちも何度でも主と、隣人のために、何度でもこの命を捧げるとの志を固くしようではありませんか。それが、わたしたちが信仰の遺産を継承するということではないでしょうか。

#### ◆お祈りいたします

憐み深い主イエス・キリストの父なる神様

今日、復活の主の記念日である聖日に、このように集められて、あなたを礼拝できる幸いを感謝いたします。私たちは老いて弱くなり、またさまざまな思いがけないことに遭遇して、平安を失うこともありますけれども、あなたはそのような時にも伴い給うて、試練を経て、揺るがぬ幸いへとわたしたちを導いてくださいます。そのことを固く信じて、私たち各自、それぞれの賜物に応じて御心に適う奉仕ができますようお導きください。

この祈り主イエス様の御名を通し御前にお捧げいたします。アーメン。